

八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

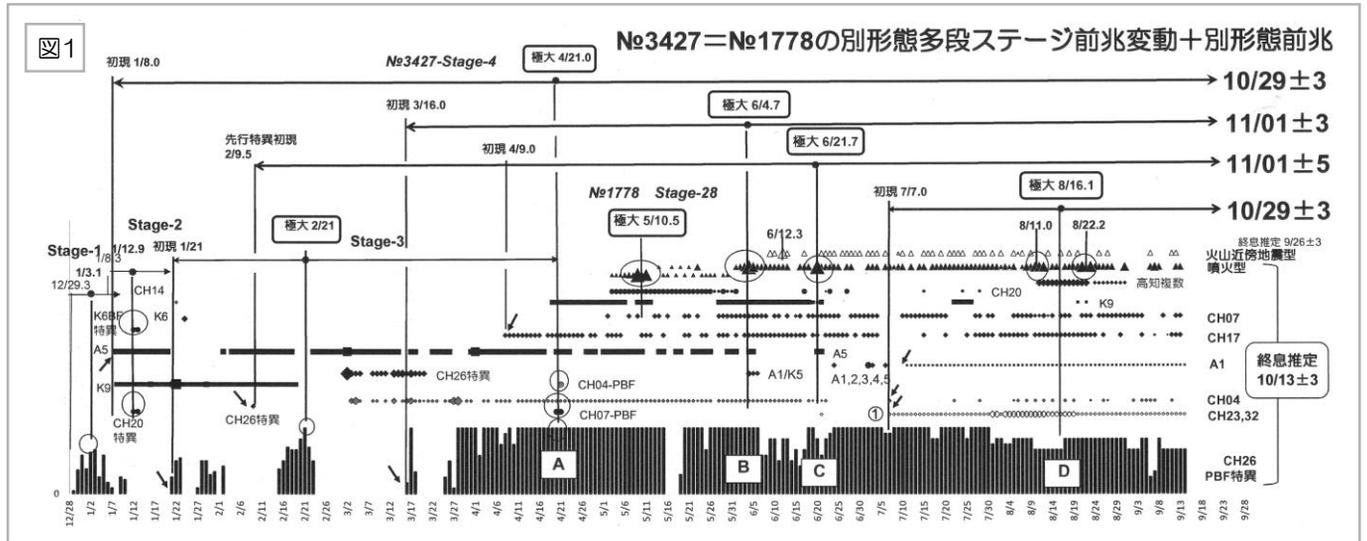
※首都圏直下・南海トラフ等大地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には非ご参加下さい。本年1/1発生「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁〜35頁を参照下さい。

※8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数=Tmap日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大地震が推定される前兆変動は観測されておませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日の高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

推定時期に前兆変動終息せず 現在までの前兆関係認識誤り→さらに再考

前情報までは9/23±3発生の可能性で検討していました。その場合は9/12±3に前兆変動終息が観測されることが推定されました。しかし、下図1のとおり、一向に終息傾向が見えず、さらに終息と認識した後に出現した火山性変動を直前変動と認識しましたが、再出現し、直前変動ではなかったことが明確です。これらから明らかに現在迄の前兆関係の認識が誤りであったことが確実です。

下図1の8/11と8/22に出現した火山噴火型前兆変動を主極大・副極大の関係と考えましたが、経験則とは合わなくなったため、ツインピークス型と再認識し、中心の8/16.1を極大と改めました。ここで、明らかに8/16.1極大に関係すると認識されるCH23、32の特異（下図1の中に①と記した継続変動）を8/16.1極大に対する前兆変動初現と認識しました。この関係からは10/29±3発生の可能性が計算されます。これを基本に他の前兆変動の関係を見直してみた結果が下図1中に記した関係です。まだ不明点がありますが、少なくとも①を初現と考えた場合は10月末以前に発生の可能性は否定されます。図1の関係が正しいか否かはまだ不明です。前兆極大が幾つも認識されるため各極大に対する終息は認識困難。今回の認識が正しい場合（11/1±3発生の場合）、現在までの最終極大8/16.1に対する終息推定時期=10/13±3に前兆が本当に終息するかを確認するしかありません。現段階で言えることは、対応地震は10月末以降である可能性と云うことです。推定発生時期=11/1±3以外の可能性についても引き続き検討します。

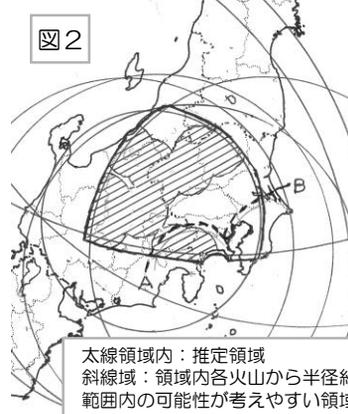


- 推定領域：図2の太線領域内=大枠推定領域
図2斜線域=可能性が考えやすい推定領域
震源が火山近傍領域を含む可能性高い

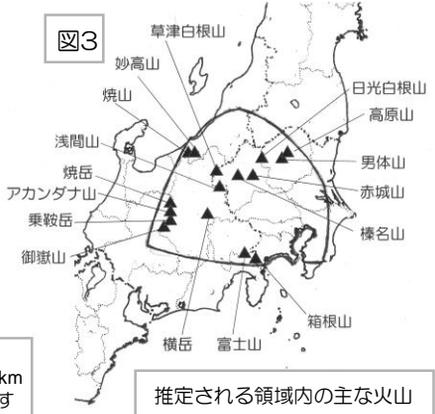
- 推定規模：M8.0±0.3（主震単発の場合）
複合の場合=M7.4±0.3+M7.3±0.3 他等
※火山噴火型前兆変動が観測されたため、地震に伴い震源近傍火山噴火の可能性も否定困難。しかし出現形態は噴火型ではなく地震前兆型であり過去の噴火例と異なるため、噴火型は単に火山近傍大型地震を示している可能性が高く、噴火しない可能性の方が若干考えやすい。（2016年発生の熊本地震は火山近傍地震型極大でしたが、今回は噴火型で極大を観測しています）

- 推定時期：11/1±3 発生の可能性で検討中
最終前兆変動終息を観測後発生日修正予定

- 推定地震：震源浅い陸域地殻地震
- 推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3



太線領域内：推定領域
斜線域：領域内各火山から半径約40km
範囲内の可能性が考えやすい領域示す



推定される領域内の主な火山

※伊豆局、勝浦局等の変動がPBFであるか、PBF特異であるかの判断が困難。PBF特異である場合は検知内限界円がなくなります。PBF特異である可能性も否定は困難なため、検知内限界円を外した推定領域に、特に特異変動を中心に最近の観測データも含め、（八ヶ岳に近い火山の近傍領域の可能性が考えやすいため）八ヶ岳近傍円を加えた推定領域図を作図しおしました。八ヶ岳により近い領域の場合は八ヶ岳南麓から半径約100km内の可能性もあります。PBF特異の他、伊豆局・勝浦局のPBFも含まれる場合は図2の点線円弧A~Bより南側は考えにくいこととなります。